

「ささえ」

2012年 7月発行 情報誌 第40号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所:福岡県田川市伊田4395(福岡県立大学内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyougunit@sage.ocn.ne.jp

HP <http://www10.ocn.ne.jp/~npofynet/enter.htm>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神1丁目 13-5

福祉用具はあなたの自立をささえます

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします

【商品名】 床ずれ防止用ハイブリッドマットレス

「アルファソラ」

床ずれ防止には体圧分散+ケアが重要にもかかわらず、これまでのマットレスは体圧分散ばかりを求めていました。医療やテクノロジーの進化にともなって常識も進化する。これからは、ポジショニングや介助のしやすさ、ご利用者の QOL などを総合的に考慮したマットレスをお選びください。

アルファソラは安定性と寝心地の良さを持つ静止型マットレスをベースに、リスクの高い腰部には新方式のエアセルを搭載。双方の利点を兼ね備えた、ポジショニングなど最新のケアがしやすいこれからのマットレスです。【発売元】(株)タイカ



特定非営利活動法人

NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育てていきたい…」

福祉用具の事故と認知症高齢者

NPO 福祉用具ネット理事長

豊田謙二

介護ベッドに首を挟むなど、認知症高齢者の事故が絶えないが、その状況をつかみつつ、対策について考えてみたい。厚生労働省・経済産業省によれば、2007年5月から2012年5月までの5年間に29人が死亡し、重症者が31人という。両省は、介護ベッドの安全点検や危険な隙間を埋めることなどを指示したという。

事故は介護ベッドだけの問題に留まらない。しかも、福祉用具はケアの過程における当事者および介護者支援を目指して活用されるだけに、用具という「モノ」だけではなく、「ケア」のありかたにまで検証の範囲を引き伸ばせ、と思うのである。

福祉用具の事故に関して、福祉用具専門相談員を対象とした全国的調査が実施されている。その調査結果に注目したい。その調査研究は、東畠弘子氏の「認知症高齢者の福祉用具利用時における事故・ひやりはつと」（『日本生活支援工学会誌』Vol.9 No.2, 2009年）である。

調査は専門相談員を取得した1,093人全員に調査票を郵送し、回答数は704人(64.4%)である。また、調査期間は、2008年6月の2週間であった。

事故・ひやりはつとの内訳では、まず状況について「ベッド・付属品」が78件(58.2%)、「歩行補助用具」47件(35.1%)、「その他」9件(6.7%)である。

次いで内容について。「転倒」40件(29.9%)、「転落」37件(27.6%)、「打ちつけ・挟み込み」24件(17.9%)、「誤操作」、「立ち上り・飛跳ね」「その他」と続く。その内の「転倒」を仔細に覗く。ベッドから「転落(しそうになる)」14件、柵・サイドレールから「乗り越え転落(しそうになる)」19件、「挟み込み」18件の3件が、ベッド・付属品に関しては群を抜く。

歩行器では、「転倒(しそうになる)」13件、車いす・電動車いすでは、「車いすに乗ったまま急に立ち上がる(転倒しそうになる)」9件、「誤操作」5件は、介護者のブレーキ忘れなどを指す。

上記調査では、専門相談員による「対応」を尋ねている。「対応」として記載されたものからを主

なもの列記する。「低床ベッドにする、高さを下げる」5件、「ベッド利用を中止する」3件、「家族へ見守り、注意を促す」2件、柵に関しても「家族へ見守り」を促すが多く7件、その他「柵の隙間を埋める」7件、さらに「柵で囲む、高い柵にする」4件、などである。

上記「対応」のなかには、当事者の行動制限を強化する方策がある。たとえば、「柵で囲む」「高い柵にする」がそれにあたる。行動の自由を「安全性」確保を理由に制限しないこと、当事者の尊厳を守ることにおいて注意すべきことである。

「安全性」を理由に、当事者を縛る、隔離、閉じ込める、などは明らかに「身体的虐待」である。ドイツでは身体拘束として禁止されている。さらに、ベッドに柵を設けることそのものが禁止であり、その許可は裁判所で得なければならない。

専門相談員は、上記調査での「利用者に認知症高齢者がいるか」の設問に、506人(72.1%)が「いる」と回答している。

認知症のある人は、閉じ込めれば出たいと行動する。柵を越えようとし、隙間から脱出しようとする。なぜ自由に行動できないのか、阻止されるその理由を理解できないからである。

福祉用具や住まい、生活道具の活用は、自由な行動の保障と生活意欲を促すケアの一体性を目標とすべきである。つまり、ケアは身体的介護にとどまらず、認知症の人への全人的ケアを目指すものでありたい。



認知症の人の集い『cafe』

特集；福祉用具専門相談員さん、ねえ～、聞いて～！

NPO 福祉用具ネット情報誌「ささえ」編集委員会

介護現場に関わっている、さまざまな関係職種の皆さんが福祉用具専門相談員の皆さんに対して感じていることを尋ねてみました。率直な声として聞いていただけたらと思います。なお、この特集はシリーズとして他の職種についても予定しています。職種が違うために普段は伝えきれない「声」を発したり聞いたりして、主人公である利用者様たちの生活に笑顔が増えることを願っています。ちょっぴり耳が痛い声、心が温まる声、こういった周囲の声を素直に受け止めることから、福祉が始まるような気がしませんか？

専門職としての資質について

■介護保険制度がスタートして10年以上。当初は、謙虚な姿勢で接してきていましたが、今は、福祉用具のことを学ばないまま「福祉用具専門相談員」という資格にあぐらをかき、知ったかぶられる方がいますよね。（ごめんなさい。ちょっときついかしら、でもとても大事なことだと思いますよ。）福祉用具のこと、もっと勉強して欲しいです。（複数意見）

■勉強していないと、自信が持てずに現場で遠慮するのではないかと思います。自信なさそうな様子で、せっかくの「福祉用具専門員」としての資格を生かせず、意見を述べられない方がおられます。

■自社で扱う製品以外の福祉用具情報についても、積極的に情報を収集し知っておいて欲しいです。

■福祉用具については、ケアマネから丸投げされることも多く、たいへんな御苦労だと思います。しかし、投げられた時に、「それはどのような目的で必要なのか」とか、「そういった身体機能であればこんなもの、そうでなければこんなもの・・・」というような提案をケアマネに対して出来るくらいの知識があると良いな～と、思います。例をあげれば、「車椅子をお願いします」という依頼があれば、「その目的は座ることなのか、移動なのか、食事なのか」その目的によって提案するものは変わりますよね。そのような視点をもってケアマネに説明し、理解してもらくことも必要なのではと思います。

■経験年数はつまれてるが、勉強不足な人が多いように感じます（福祉用具はこくこくと新しくなっている）。常に勉強し、新しい知識をいれてほしいです。

■在庫処分や、取り寄せ手続きが煩雑、知識不足のため取り扱いが面倒など、自分の都合を優先し、「福祉用具によっては使い勝手が悪いので勧められない」等、知らない者が聞くと納得するような、正当な理由付けをして、取り扱ってくれなかったことがあります。

■担当者会議に参加して欲しいし、参加した時には、遠慮せずにご自分の意見を何かしら出してほしいです。

■お聞きしたいことがあって、質問しても返信がないような方がおられます。答えに困った場合でも、何かしらの返事をして意思の疎通を図るようにしてもらいたいです。

■ケアマネやリハに気をつかひすぎのように思います。機嫌を損ねてお仕事がこないと困るとの立場も分かりますが、「福祉用具専門相談員」としての専門性を生かし自信をもって連携をとるようにしてほしいです。

■ほとんどの相談員さんは良く勉強しておられ、頼りになります。リハ関係者と福祉用具相談員さんが一緒に検討し、選定・導入したり住宅改修をした時には、連携加算がつくなんていうことになったら良いですね！そうすれば待遇も少し改善されていくのでは。そういった明るい未来のためにも、今は私たちが連携し、その成果をアピールする時かもしれませんよね。お互いに頑張りましょう！

他職種との連携や

ケア会議について

福祉用具専門相談員としての

業務内容のこと

■福祉用具の使いかたについての説明が不十分なので、もう少し詳しく教えてもらえると、安心して安全にそして有効に活用できると思います。

■知らないことは勉強して欲しいですし、新しい福祉用具の情報は常に入手する努力を忘れないで、私達に教えて欲しいです。

■時に在庫をおしつけられているように感じます。ご利用者様の身体状況などから本当にそれでいいのと思うような選定が見受けられるからです。

■使いかたの説明をしっかりとしてください。特に導入直後は関係者が使えているか、危険はないか見極めてください。介護現場は関わる人がたくさんいます。関わる関係者が道具を理解するまでフォローできるような態勢づくりをしてください。それが専門職としての役割なのではないかと思います。

■モニタリングの重要性を感じておいでですか？モニタリングをしないと、事故の発生などが不安ではないのですか？もっとしっかりとモニタリングができていれば事故も未然に防げる事例もあるのではないかと思います。

■福祉用具によっては、取扱が大変だから取り扱わないという考え方は、「福祉」を看板にしている職種の者が言う言葉ではないと思います。その用具が事例の生活改善のために大切な必需品である場合もあります。例え、自社で扱っていなくても、用具の情報は待っててください。当社では扱っていませんが、他社の〇〇社様が取り扱っておられます。そんな情報は提供できるようにしてください。

■事業所によっては、担当者会議への参加や照会の返信が、なかなかないところもあります。電話やFAXなどでその都度ご相談しているのですが、音沙汰なしで…。これでは、連携どころか連絡すら取れません。

■とてもよく対応してくれる事業所には、わからないことがあるとすぐ相談してしまいます。その事業所の方にはとても迷惑をかけているのではないかと思うぐらいです。

助かるのは、用具に対する説明だけでなく、そのご本人やご家族の生活環境やお気持ちをきちんと理解したうえで、メリット・デメリットを説明してくれることです。また、その用具が使えないか考えるに至った状況も踏まえて、代替案の提案や助言をしてくれます。

その他

■せっかく慣れたのにやめて担当が変わるのは困ります。長く務めやすい労働条件であると良いのですが・・・。

■職員さんの入れ替わりが激しい事業所があり、新人さんがいきなり担当者会議にこられ、福祉用具の選定などの相談をしても何も知らないことがあり困ります。新人教育をしっかりとした後で独り立ちさせてほしい。

■「異動等での担当の交代は、なるべくしないでほしい。」担当の人を信頼して相談したら、その後異動となり、新しい方では全くフォロー等ができません等ということがあります。異動させるのであれば、会社の責任できちんとフォローや対応ができるように配慮していただきたいです。

今回の意見に賛同された人、「いや、私の知っている人は力のある人よ！」と思った人、「ムッカー！」と来た人、様々でしょうが、この情報誌「ささえ」を手にとった方々は、日々スキルアップをめざしている方ばかりです。どれか一つにでも該当したことがあった方、いきなり全てを改善することは大変なことですよ。スモールステップで、明日からにでも実施できそうなことを着実に改善していただけると幸いです。

編集委員会一同

今、思うこと。「福祉用具の開発に王道なし」

(その30)

九州日立マクセル(株) 技師長 坂田 栄二
(NPO福祉用具ネット理事)

“バケツ一杯で洗髪できるか？”

「たっぷりお湯で、洗髪してあげたい」というコンセプトを持っていた開発おじさんこと、松原は、大山の集計したモニター結果を見て愕然とした。そのモニター結果は、あまりにも松原の思いと離れていたからだ。

確かに、市販の介護シャワーを試してみると、家庭用の大きめの10リットル入りのバケツが、1分少々で空になる。1分では、十分すぎもできそうにない。これでは何度も水を汲み、捨てに行かなければならない。洗髪するには一体どれくらいの水が必要なのか？何らの基礎データも持たない松原は途方に暮れた。

バレーボールに教えられた原因

松原は、市販のシャワーで花や壁、車などに手当たり次第に水をかけてみた。水道のホースから直接水をかけるような水撒きスタイルでは、水がどのように広がっていくかよく判らない。しかしシャワーで水かけをすると、水の拡散状態がよく判る。

ある日、手元にあったバレーボールにシャワーをかけてみた。バレーボールがちょうど頭のように見えたからだ。

バレーボールの表面に当たった水は、勢いよく四方八方に飛び散る。水の量の割には表面があまり濡れない。逆に、ボールの周りは飛び散った水でびちゃびちゃに濡れる。

“そうか！頭は丸いから水の勢いが強すぎではダメなんだ。バレーボールと一緒だ。”

松原は答えを見つけた気がした。彼の顔にはにんまりとした笑みが浮かんでいた。

水の勢いを減らせば、水量も減るではないか。ではどうやって、勢いを落とすか？

早速、近くのDIYショップで“節水シャワー”を買ってきた。しかし、巷に売られている節水シャワーと言っても毎分6リットル近くの水が出る。これでもバケツ一杯の水では、2分と持たない。まだ不十分だ。

勢いのない簡易シャワー

次に試したのが、“簡易シャワー”というものだ。このシャワーは、カタログによると毎分2.5リットルの散布量と書かれている。この水量では、バケツ一杯で4分近く使用できる。松原はようやく目途がたったと思ってシャワーをかけてみた。

しかし、そのシャワーの勢いは“じょぼじょぼ・・・”と垂れ落ちるようなものだった。バレーボールの表面は

一筋の流れができる程度で、髪の中のシャンプー泡を押し流す勢いはなさそうだった。

相反する課題

彼はその簡易シャワーを家に持ち帰り、風呂に入って自分の頭で試してみた。なかなかシャンプーが落ちない。落ちないままにバケツの水は、底をついた。

彼は、風呂に浸かったまま考え込んでいた。そのままでは湯当たりしてのぼせてしまうのではないかと思うほど、我を忘れて浸かっていた。

湯船の松原は、手に簡易シャワーを握ったまま、シャワーヘッドの噴射孔をじっと見ていた。

節水効果を徹底すると、水の勢いが無くなる。果して、この相反する“水の勢いを保ったまま節水”は出来ないものなのか。どう見ても矛盾している。

解決策は噴射孔

その簡易シャワーの噴射孔をじっくりと見つめてみると、市販のシャワーよりも孔の数が少ない上に、穴の大きさが針の孔のように小さい。

おまけに、しばらくシャワーすると孔サイズが小さすぎて、その孔が目詰まりし、水が出なくなる。そのたびにヘッドを外して孔の清掃をしなくてはならないことも判った。

“解決策は噴射孔にある。”と確信した松原は市販のシャワーを沢山買い込んできた。

シャワーヘッドを外し、1つずつ孔を接着剤で埋めてはシャワーをするという気の長い作業を始めた。しかし節水を気にすると、やはり簡易シャワーと同じように勢いが無くなる。好みの勢いを保つと、節水が出来ない。まさにジレンマ状態だ。



上の図：従来品は、中心部分の乱れが邪魔になる

そんな時、お風呂の鏡に、偶然にもシャワーがかかった。彼は、ハッとした。

鏡がくれたヒント

市販のシャワーの水は、鏡に当たった時、中心部分の水の行き場がなく、乱れていたのだ。その鏡はシャ

ワーの底の部分を見せてくれていた。

シャワーの孔は、ノズル先端に万遍なく規則正しく並んでいる。このために、水は1つの塊となって飛んでいくが中心部分の水は、外側に出ようと渦巻いている。この水は、洗浄効果に寄与しておらず、無駄な水だった。



上の図:底から見た水の動き

あわてて、風呂から上がった松原は、何を思いついたか、最外周の孔だけを残して、中心部分の孔をすべて接着剤で孔潰した。孔はリング状に並んでいるだけとなった。

風呂に引返し、ノズルをホースにつなぐと、蛇口を思いっきり開けてみた。シャワーは勢いよく鏡にぶつかるが、中心部分には穏やかな水たまりができていたことを写しだしていた。(上図 左を参照)

リング状シャワーの誕生

これがリング状シャワーの誕生の時だった。

周りのシャワー水流は筒状に吹き出し、その筒状に守られて中心部分に穏やかな水溜りができることが判った。

このシャワーを、松原は自分の手のひらに当ててみた。心地よい勢いが伝わってきた。これは行けるかもと小躍りした。

シャワーを流しっぱなしにしたまま、頭にシャンプーを掛け、両手で山ほどの泡をたてた。次いで、シャワーを取り上げ、その泡をめがけてかけた。髪の毛をかき分けるように、水の勢いが伝わってくる。頭皮にマッサージのような快感が走る。

そして、髪の毛の間を通る水は、辺りに飛び跳ねることなく周囲へゆっくりと広がっていく。顔の前を、泡を含んだ水が伝い流れる。彼は嬉しさのあまりじっとして、シャワーをかけつづけた。

本当に節水できているのか?

ハッと我に返った松原は、期待以上の洗浄力に疑問を持った。本当に節水効果はあるのか!

これまでの彼の知見では、洗浄力と節水は相反すると思ってきたからだ。

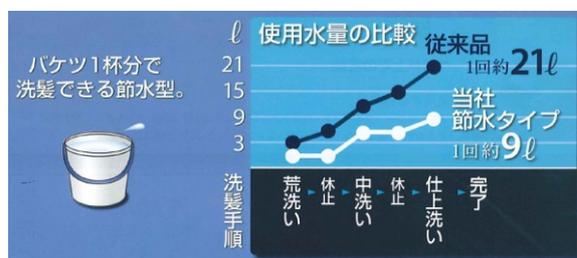
洗面器を手元に引き寄せると、シャワーをその中にため始めた。

「シャー……」と音を立てながら、洗面器の中に水がたまっていく。しかし、市販のシャワーのようにぐんぐんと水位が上がるようなことはない。勢いのよい水音が浴室内に響くが、音の割には水位は上がらない。

腕時計の文字盤の水を拭い取り、時間を計ってみた。1分経過した。でも洗面器は一杯になっていない。脱衣室の体重計に、洗面器ごと載せてみた。体重計は2kgを指している。次いで水を捨て、空の洗面器を体重計に乗せた。200gである。

松原は裸で立ったまま、計算をした。何と毎分1.8リットルという少ない水だった。先ほどの洗髪時の刺激からすると、もっとたくさんの水が流れているのではないかと思っていた松原は、自分自身で驚いていた。

心地よい水の勢いを感じながら、しかもしっかりと節水ができていた。矛盾は解決した。



上の図:バケツ一杯の水で洗髪

松原は、冷え切った体を浴槽に沈めた。そして自分の顔にシャワーをあて続けた。

信じられないシャワー

翌日、市販のシャワーと試作品をダンボール箱に詰めて、NPOの事務局を訪ねた。

「大山さん、出来たよ。バケツ一杯で洗髪できそうだよ。」

松原の苦勞を知らない大山は、松原がいつもの冗談を言っているかのように、箱の中を見て笑いながら、「たったのバケツ一杯の水で、洗髪ができるわけなかるうもん(できるわけではないでしょう)。」

「いいや、それが出来たとよ!これを見てよ。」

そういうなり、箱から試作品を取り出し、大山を洗面所に連れていった。

蛇口にホースの先をつなぎ、蛇口をひねって、シャワーの先を大山の手に向けた。

「シャー……」

大きな水音を立てて、大山の手にシャワーが当たる。

「こんなにたくさんの水を使うんじゃ、バケツ2杯は要るんじゃない?」

にわかには信じ難いシャワーの勢いだった。

『ヒューマニー』を排泄ケアの新しい一手段として たくさんの人に知って欲しい！

NPO 福祉用具ネット 大山美智江（看護師）

自動採尿器『ヒューマニー』が、今年の4月から介護保険制度で福祉用具の貸与品目になりました。しかし、多くの福祉用具レンタル事業所は、“ヒューマニーは大変だから”と様子をみている状態で、実際に取り扱っている事業所はまだ少ないようです。

先日のNPO福祉用具ネット主催「ヒューマニーの活用法と使いかたの実際について」の研修会で、受講者から「どこで取り扱っていますか?」、「レンタル価格はどのくらいですか?」との質問がありました。せっかく介護保険制度で貸与品目に指定されていても、肝心の福祉用具事業所が取り扱っていないのでは必要な事例に活用できないということになります。まだ認知度の低い福祉用具の情報も益々現場に届き難いのではないかと感じました。

「よく知らない福祉用具は使えない」、「使ったことがないとケアプランに入れるのが不安」、これが福祉用具によくある課題です。

福祉用具専門相談員、ケアマネ、ヘルパー、訪問看護師など現場の専門職の方はこれらの新しい福祉用具を知っていて欲しいと思いました。

私達の先には、困っている要介護者や介護で苦勞している家族の方がいます。新しい福祉用具で問題解決できる事例がひとりでもいれば、専門職として検討すべきだと思います。

問題解決の一手段として、現場の声から開発された福祉用具を現場の私達がちょっと大変だからなどの理由で拒絶していいものだろうかと感じています。

ヒューマニーを利用して、介護者もご本人も良く眠れるようになりましたと喜んでいる事例、映画も観にいけるようになった事例、床ずれやスキントラブルが改善している事例など、さまざまな事例を知っています。どの事例の方もヒューマニーという製品に出会うまではあきらめていた方達です。

これまでにヒューマニーの導入支援をして共通して気付いたことがあります。

それは、「現状ではオムツすらうまく当てられていない」という実態です。「オムツをいい加減にあてているような現場では、フィッティングを要求されるヒューマニーを上手にあてられるわけがない」と思いました。

京都の排泄総合研究所「むつき庵」がオムツフイッターという研修会を開催しています。本NPOも共催して何度か福岡でも開催しました。排泄ケアが上手にできていないと気付いた方が全国から学びに来られています。今年2月に福岡で開催した際にも、沖縄を含む九州全域や香川、岡山、広島、山口などの中四国からも受講されました。この研修会は京都で定期的に開催されていますが、常にキャンセル待ちの状況のようです。

『たかがオムツ、されどオムツ』、ヒューマニーの前にもう一度オムツの当て方も見直すべきだと感じています。それでも解決しない事例は排泄ケアの一手段として、一度ヒューマニーを検討されることをお勧めします。

先日のNPOのヒューマニーの研修会でのアンケート結果でも、回答した20人の方の周りにヒューマニーの適応事例は40人以上おられるという回答でした。しかし、実際に使用するとしたら、いくつか課題もあり直ぐには使用できない事例（認知症や費用や新しい提案に対する受け入れなどの問題点など）も多いことが分かりました。しかし、10人くらいはすぐにでも使用した方がよい事例があるとの回答でした。

住み慣れた我が家で生活を続けたい、そんな気持ちに寄り添いながら、排泄ケアについて介護現場で支援することはないか今一度考えてみませんか？



事務局だより

ご寄付の報告

3月の末に、A様（匿名希望）から連絡があり40万円という多額の寄付のお申し出をいただきました。A様は長年にわたりお母様の在宅介護をされておられる方、以前に福祉用具選定や介護の相談をお受けした方でした。そのお母様が亡くなられ、ご香典をNPO福祉用具ネットに寄付をしたいとお申し出でした。NPO福祉用具ネットとの関わりを覚えていただき、このような形で評価していただきましたこと、とても嬉しく感動しました。亡きお母様のご冥福を心よりお祈りするとともに、ご家族様のお気持ちを有難くお受けさせていただきます。有意義に活用させていただきますと思います。本当にありがとうございます。

新役員が決定！

6月末の任期満了に伴い、新役員が決定しましたのでご紹介します。（敬称略）

理事 18名

【理事長】豊田謙二（熊本学園大学社会福祉学部大学院社会福祉学研究科教授）

【副理事長】坂田栄二（日立マクセル(株)九州マクセル事業本部開発グループ）

朝比奈聡（グリーンコープやまぐち生活協同組合福祉事業部部長）

甘村雅博（(株)おたふく屋）

井内陽三（あおぞらの里行橋訪問看護ステーション理学療法士）

海尾美年子（アップルハート飯塚訪問看護ステーション理学療法士）

大山美智江（NPO福祉用具ネット事務局長）

帰山清（日立マクセル(株)九州マクセル事業本部電器部 メディカル・ケア開発グループ）

城島泰伸（専門学校麻生医療福祉&観光カレッジ顧問）

長尾哲男（九州栄養福祉大学リハビリテーション学部作業療法学科教授）

中村晋介（福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター准教授）

長谷川節子（田川市立病院リハビリテーション科副理学療法士技師長）

左広美（福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター助手）

松尾清美（佐賀大学医学部附属地域医療科学教育研究センター准教授）

松原昌三（(株)福祉SDグループ代表取締役）

丸田宏幸（田川市議会事務局事務局長）

山形茂生（別府リハビリテーションセンター総合連携部教育研修課・地域連携課課長）

吉村恭幸（(財)福岡県社会保険医療協会会長）

監事 2名

小野靖史（前(有)フィット福祉用具サポートセンター代表取締役）

田島靖（前方城町社会福祉協議会事務局長）

事務局が移転しました。

大学関係者のお力添えのお陰で、これまで10年間過ごした生涯福祉研究センター内から、学内の3号館1階に移転いたしました。以前のお部屋の2倍以上の広いお部屋です。開発相談や介護相談など、少人数での会議もできるようなコーナーを設けています。所有している福祉用具や共同開発品なども展示しています。お気軽にお立ち寄りください。

【4月から6月までの主な事務局のうごき】

4月14日 FJC協会見学会（飯塚市筑穂桜の園他）

4月24日 通常総会

5月6日 総会欠席者に事業報告会計報告発送

5月16日 第1回福祉用具研究会

5月19日 ヒューマニー研修会開催

5月25日 FJC協会見学会（別府重度障害者センター）

6月2日 ゆとり介護ハンドケア講座開催

6月13日 鹿児島ヒューマニー研修会

6月16日 FJC協会見学会（JR九州博多駅）

6月21日 第2回福祉用具研究会

6月27日 福岡県立大学にて福祉用具体験講座

【今後の予定】

福祉住環境コーディネーター協会見学予定

7月14日 福岡市ふくふくプラザ他

10月6日 日本ケアサプライ福岡営業所

11月16日 佐賀県立地域生活リハビリセンター&バリアフリーモデル住宅

今後の研修会の日程が決定しました。

7月7日 ゆとり介護②フットケア講座

8月25日 ゆとり介護③アロマ講座

9月22日・23日 ポジショニング技術研修

10月20日 ゆとり介護④マッサージ講座

11月23日 ゆとり介護⑤メーキャップ講座

12月8日 ゆとり介護⑥メーキャップ講座

ヒューマニー活用研修会 出前講座随時開催

7月13日 佐賀県介護実習普及センター

7月14日 久留米市九州ホームケアサービス